

Collegium Musicum del Cerro  
 コレギウム・ムジクム・デル・チェルボ  
**第6回定期演奏会**

土曜の午後はステキにクラシック

8月18日(土)

14:00開演(13:30開場)

**入場無料**

加古川ウェルネスパーク  
 アラベスクホール

加古川市東神吉町天下原370  
 TEL: 079-433-1100

W.A. モーツァルト  
 交響曲第16番 八長調 K.128

D. チマローザ  
 2本のフルートのための協奏曲 ト長調  
 独奏: 中山 猛  
 松岡ゆかり

A. サリエリ  
 歌劇「ファルマクーザのチェーザレ」  
 序曲～海の嵐～

F.J. ハイドン  
 交響曲第101番 二長調「時計」



後援 加古川市教育委員会  
 加古川フィルハーモニー管弦楽団

お問合せ 079-425-9724 (青山)

ホームページ

<http://collegium-musicum-del-cervo.net/>

f コレギウム・ムジクム・デル・チェルボ

■JR・バス

JR 加古川駅下車、神姫バス約20分「ウェルネスパーク」下車

■車

加古川バイパス「加古川西ランプ」より北へ約1km、  
 「東神吉西」交差点を右折し東へ約1.2km、  
 ウェルネスパーク案内板を左折し北へ約0.9km。  
 山陽自動車道「加古川北IC」より南へ約6km、  
 「東神吉西」交差点を左折し東へ約1.2km、  
 ウェルネスパーク案内板を北へ約0.9km

※小さなお子様と一緒に鑑賞いただける  
 チャイルドルームもございます。  
 お気軽にご来場ください♪





# Profile

## コレgium・ムジクム・デル・チェルボ (Collegium Musicum del Cervo)

兵庫県加古川市を拠点として、2012年に誕生。20代から60代までの幅広い年齢層のメンバーで構成される室内合奏団。

加古川の旧表記「鹿兒川」にちなみ、イタリア語で「鹿の音楽集団」と命名。通称、“チェルボ”(鹿)。

モーツァルトやハイドンなどの古典派の作品を主なレパートリーとし、メンバーが互いに議論することで作品の解釈を深め、アマチュアでありながら質の高い音楽作りを目指す。現在メンバーは23名(ヴァイオリン8名、ビオラ3名、チェロ3名、コントラバス1名、フルート2名、オーボエ1名、クラリネット2名、ファゴット1名、ホルン2名)。

# Notes

### 交響曲第16番 八長調 K.128 (W.A. モーツァルト)

この曲は、1772年の春から夏にかけて、モーツァルトがザルツブルクで6曲のシンフォニーをまとめ書きした中の一つで、同年3月に就任したばかりの新大司教コロレードに初めて見せるシンフォニーとして生まれたと言われています。動機ははっきりしませんが、16歳の少年作曲家が意欲的で挑戦的な内容の作品を大量生産しなければならない事情があったものと思われ、そうして生まれたシンフォニーはどれも外見は平凡ながら、少年モーツァルトがその時点で持っている最高のものを世に送り出して期待にこたえようとしているように思えます。

### 2本のフルートのための協奏曲 ト長調 (D. チマローザ)

ドメニコ・チマローザ(1749～1801)はナポリ楽派の歌劇に代表される大家であり、ローマ、ナポリで多くの歌劇を発表し成功を収めました。生涯で全76曲の歌劇を残しています。チマローザの器楽曲ではチェンバロ・ソナタが比較的良好知られていますが、協奏曲も何曲か作られており、いずれの曲もその旋律の美しさに加えて明るい喜びがみなぎっています。

「2本のフルートのための協奏曲」は、帰国した年の1793年に作曲されましたが、すでにモーツァルト風のウィーン古典様式の極めて美しい珠玉の二重協奏曲です。

### 歌劇「ファルマクーザのチェーザレ」序曲～海の嵐～ (A. サリエリ)

サリエリが生まれたのはバッハが亡くなった約一か月後。バロック音楽が幕を閉じ、古典音楽が花開く時です。

ベートーヴェンやシューベルト、リストなど多くの弟子を育て、教育者としても優れていたと言われ、ウィーンの宮廷楽長として活躍したサリエリ。オペラ作曲家としても名声を確立した彼のこの序曲は、1778年にミラノ・スカラ座で上演された「見知られたエウローパ」の冒頭部分の転用です。「海の嵐」という標題のとおり、波のうねりなどが描写され、嵐の中の航海の様子が伝わってきます。古典音楽の源とも言えるサリエリの世界をどうぞお楽しみください。

### 交響曲第101番 二長調 「時計」 (F.J. ハイドン)

ハイドン晩年の交響曲は、有名な曲がいくつもありますが、中でもこの曲は「時計」というニックネームでよく知られ、親しまれている作品です。ハイドンが、ロンドンでの演奏会のために依頼を受けて作曲した12曲の交響曲の中の1曲です。

「時計」という呼び名のもととなった第2楽章は、時を刻む振り子のような規則正しいリズムで伴奏が流れる中、のどかな雰囲気の中で旋律が聞こえ始めてきます。また、その他の楽章もそれぞれに曲想が異なり、その変化や表情を楽しんでいただける素晴らしい音楽です。ハイドン後期の成熟した音楽をお楽しみください。

